おおあらい

第30号

発行所　大洗町役場
発行人　加藤清
印刷所　新いばらきタイムス社
TEL 水戸②五一二八（代）

新らしき春を迎えて

町長　加藤　清

町民の皆様、茲に昭和三十九年を迎え謹んで新年の御あいさつを申上げます。

たしか一昨年の暮だと思いますが東京から原子力委員の方々が夏海地区の現地視察に参られ私共案内して南中学校へ寄られました。屋上へ上った処丁度その日は幸い風もなく静かな夕暮時で、紫の筑波がくっきりと夕空に映え、涸沼の真珠色に輝き、また眼下一杯に広がった大洗原の地平線から十五夜月がだんだんと上り、ただ一点遠く柵哉磯附近でときどきパッと白波が砕げるその景観には石川一郎先生はじめ皆口をそろえて讃嘆しておられました。私もそうした景観を見るたびに思うのですが、こういう偉大なる自然美に恵まれた私共はいかに幸福であるか亦それだけこういう立地条件をいかに利用し開発して郷土の繁栄を築いてゆくかという大きな義務と責任とを感ずるわけであります。

幸い大洗港はことし四年目を迎え、大体工事も順調に進んでおります。船曳場やその他で漁業者の皆様にもいろいろ御迷惑をかけておりますが、ほんとうに協力していただき感謝に堪へません。完成をめざしてことしもがん張るつもりでおります。

尚大洗原研につきましては、昨年寄編成された三十九年度の政府予算の獲得には、議会をあげての陳情運動が実を結び四十万坪の土地代金の中残っておった三十万坪の代金も全額獲得でき尚アイソトープ、材料試験炉、その他の建設費初年度で十億に近い国費がついたことは全く喜ばしい次第であります。土地問題は全く大変でありまして地主の皆様の協力なしにはできないわけでありますので甚だ申訳ない次第でございますが何卒御理解と御協力をお願い申上げる次第でございます。

振り返ってみますと私としては今迄一生懸命にやってきたつもりでありますが、教育の問題、上下水道、住宅、道路、し尿処理、庁舎建設その他とれ一つとっても大きな問題が残されており、しかも限られた予算のわくに縛られ誠に悩みはつきません。仕事をすればするほど金がかかり苦しみも多くなるのは当然でありますが、されば、といって安易に過しておっては時代に取残されて了うわけであります。

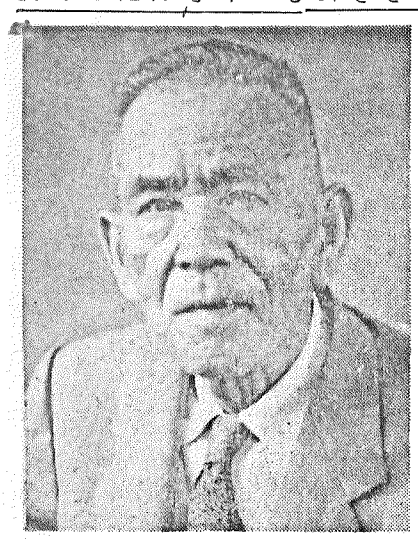
現在大洗町は将に躍進途上にありどんなに苦難の道が続こうとも、英知と勇気を以って切り拓いてゆかねばなりません。これこそが私共の後に続く子孫に対する土産であると信じております。

それにしても一番大事なことは、町民一人一人の相互の理解であり信頼であります。誠実な生活態度平和な家庭、善意溢れる社会現況こうしたものこそ新生大洗町を築き上げる原動力でなければなりません。幸い議会も全員一致団結し今度の予算陳情運動でもみられるように、未明に起きて朝食も取るひまもなく、一路上京し夕方までプリンスホテル、科学技術庁、大蔵省、国会、都道府県会館等連日東奔西走した火の魂こそ町民の信任に応へる活動であったと思います。

尚、こんど新しく、助役、収入役も選任され、職員の更でつも終り新しい陣容を整へました。昨年に倍して本年こそ歴史の一頁を飾る年にしたいと念願しております。何卒町民の皆様の御支援を心からお願い申上げる次第であります。

飛躍をつづける大洗町とともに

議長　大貫熊雄



ここに平和で静かな初日に明けた昭和三十九の新年を迎え、町民の皆さんとともに心からお喜び申上げます。

私共昨年十月の改選に当り皆様方の深い後援により当選の栄を得ましたことに対し衷心より御礼を申上げます。また不肖私こと議会の御推せんにより要職の身にもかかわらず引続き議長の重責をになうことと相成りました。甚だ微力ではありますが、町当局と相ていけいたし、目下輝かしい飛躍の途上にありますわが郷土大洗町の建設のため老駆にむち打ちながら精進をして参りたいと決意を新たにいたしております次第であります。

すでに皆様御案内の通りわが大洗町発展の柱ともいうべき港湾の建設も、第四年目に入り、一昨年来町をあげて努力を続けて参りました、大洗原研の実現も今回四十億に近い国家予算の決定によりいよいよ本格的な段階に到達いたし、更には県立公園大洗周辺の観光施設も逐次整備強化されつつあり、訪れる観光客も年を追って増加するなど、将にことしの吾が大洗町はたつ年の名にふさわしい昇天の勢いで一大飛躍をすることであらうと信ずる次第でございます。

これもひとえに町民皆さん方の町に寄せる全幅の御協力と深い愛町心によるものでありまして、町当局と町議会が固い親愛感と尊い和に結ぼ、一丸となって町の繁栄を願う真しな努力精進の結果に他ならないと存じます。

尚ことしの十月には国際スポーツの花とも申すべき「オリンピック」東京大会が全人類注目のうちに開催されるわけであり、吾が大洗町が世界の観光地として仲間入りできる可能性は充分あると存じ、まことに希望溢れる善良の年であと申してよいと思います。

このように一大進展を約束される大洗町とともに町民皆さん方の深い御理解と厚い御支援とをいただき、私共議会議員一同一層決意を新にいたし、豊かで平和なそして活気溢れる町づくりに挺身いたしたいと念願しておる次第であります。終りに町民皆様方の御繁栄と御多幸をお祈り申上げ、新年のごあいさつにかへる次第であります

町ぐるみで子供達を守ろう

―朝の挨拶と呼びかけ運動―

大洗町は、現在偉大な振興計画のもとに、大洗外港、大洗原研、学校建築、観光開発、産業道路の整備等、めざましい発展を遂げつつあります。

しかし、全国的な社会悪の風潮は、とみに問題化し、大洗町における青少年の行動にも憂慮すべきものが多々あり、学校教育活動のみでは如何ともなし難い点があるため、家庭、学校、社会が一致協力して、町ぐるみの人づくりに邁進すべく、去る十一月二日には大貫夏海地区と大貫小学校において十二月五日には磯浜、祝町地区を第一中学校において約五百名の参加者を得て、第一回大洗町道徳教育研究集会が開催されました。

当日は左の分科会と課題を設定して熱心に研究討議がなされたのち全体会議において各分科会の報告がなされ、最後に、集会参加者一同から加藤町長、大貫町議会議長に対し、将来を託する子供達の上に、限りない愛情と信頼を寄せて、家庭、学校、社会が一致協力して人づくりに邁進すべく「我が子は大洗町の大切な子供、他人の子供も尊い我が町の子供」の精神に徹して、大人自身がその言動を反省し、大人達の総力を結集して常に誇りと希望に生きる、よりよい青少年の育成に努力し精魂をつくすべく、力強い宣誓がなされました。

○第一分科会
　子供のしつけはどのようにしたらよいか。

○第二分科会
　家庭における勉強のさせ方はどのようにしたらよいか。

○第三分科会
　校外における遊びや交友などをどのように指導したらよいか

○第四分科会
　どのように協力して町の子供達をよりよい子にするか。

加藤町長が明るい家庭づくりに呼かけ運動を提唱

また、当日の研究集会席上、加藤町長から、明るい健全な家庭づくりのために、各家庭こぞって、「お早ようございます」の朝のあいさつを交そうと提案があり早速声かけ運動のスタートとして、一日の出発は家庭の人々が朝のあいさつから始めようと申し合わせました。

大洗町の皆様こぞって御協力を願います。

今回の集会も、ただ単なる集会のみに終ることなく、根気づよく展開し明かるい家庭、明かるい社会づくりに努力することを誓い合って終りのない閉会をいたします

【写真は研究集会の風景】

町をあげての「獲得陳情」実を結ぶ

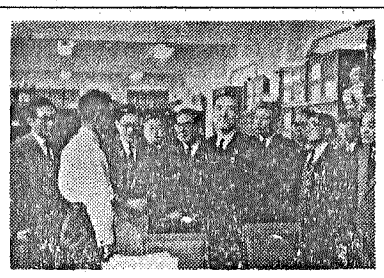
原研予算　九億五千万円
港湾予算　一億二千万円

大洗港は昭和三十六年五ケ年計画一千五百億で着々実現されているが、国全体の港湾規模を拡大するため、昭和三十九年度より七千二百億の予算で新五ケ年計画を策定するため強く陳情運動をする方針が決定され、尚大洗原研は三十八年度四十万坪のうちの十万坪が決定、残り三十万坪の予算を三十九年度の政府原案で獲得せねばならないことになったため、これに即応し十二月二十一日の町臨時議会で全員上京して活動する町の方針がきまった。つぎに記すものはその活動の状況である。

十二月二十三日

午前五時半、議会全員、町長、議会事務局長、田山係長等役場集合町にとって最も大きな事業である港湾と原研のための予算陳情運動のためである。

一同バスに乗り一路東京へ、星空輝き寒さきびし、車内において町長より今までの経過および今後の運動方針を説明する。議会において今日から陳情を開始することは決めておいたのだが、昨日大蔵省より各省へ予算の第一次内示があったのでその点を特に説明したわけである。港湾の方は昭和三十六年、全国で二千五百億円の五ケ年計画ができ上り、大洗港の新設もその中に入り昭和三十八年度は三年目であるが、ここに新しく昭和三十九年度を起点とする新五ケ年計画、七千二百億円を策定しようとする運動方針がこの秋全国港湾大会で決められ、その予算を獲得しようというのが目的であるが第一次内示では甚だむつかしいという情勢である。原研の方は四十万坪の土地代三億二千万円の中、昭和三十八年度は十万坪分八千万円は予算がついており残りの一億四千万を昭和三十九年度予算につけるということでありその他アイソトープや材料試験炉の予算も科学技術庁より要求しておいたのだが前任者の金井さんは多年に亘る豊富な経験とすぐれた手腕の持主の方であったためにその後任として果して聯責を全うし得るかどうか一抹の不安を感ずるものでありますが、町民皆さんの御支援と御指導を希って新しい辰年にちなんで新にたつの決心をいたし最後の御奉公と覚悟をあらたに邁進いたしたいと思います。何卒旧に倍する皆さま方の御支援と御協力を衷心よりお願い申上げごあいさつといたす次第であります。



第一次回答では三十万坪の土地代

就任のごあいさつ

助役　小沼磯次郎

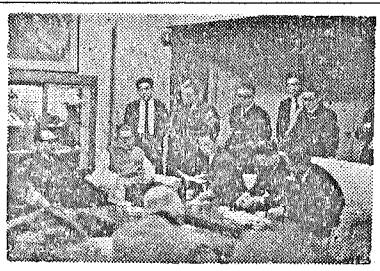
明けましておめでとうございます希望と期待に充ちた昭和三十九年の輝かしい新春を迎え、町民の皆さんに心より祝福を申し上げます私これまで永年の間町役場職員として、厚生、総務の仕事をさせて頂いておりなにかれと町民の皆さんの御協力を得ましてどうやら大した事故もなく過して参りましたことに対し厚く御礼申上げます。

旧ろう二十五日前任者金井助役の勇退されましたについて、はからずもその後任に推せんされまことに身に余る光栄と感激いたします役さんの任期尚子による御勇退により図らずも町長さんの御選任のもとに町議会の御同意を戴き収入役という重責を汚すことになりました、もとより浅学の者でありましてこの重責を果し得るや否や危惧を感ずるもので御座いますが役せんを頂きました以上、自分のもてる全力を傾注いたし町長さんの手となり足となって町づくりの一助ともなりたいと考えております

御挨拶

収入役　坂本寅吉

私ごと云る十二月二十六日前収入役の御後任として就任の決意をいたしたので御座います、皆さん方すでに御承知のとおり本町は町長さんを中心に議会議員さん方又場に奉職爾来三年間皆さん方の心からの御支援によりまして大過なく過ごしていただきましたので関係各団体の方々の積極的な御活躍により東に大洗港の建設、南に大洗原子力研究所の建設等将来の発展を期して躍進の途上にありますこの秋に選任をいただき財政の一端を担うことは勤め甲斐のあることと存じ一意精進いたし皆さん方の御期待に添う覚悟で御座います。どうか層一層の御指導と御支援を賜りますよう御願いを申上げ就任の御挨拶を申上げます。



の中十万坪分だけがついただけで他は何れも零であった。こうした情勢下において方鞭を排して目的を達成せねばならないと一同強く決意を固める。

午前十時都道府県会館東京事務所に到着、ここで参議院議員の郡先生、杉浦秘書官と連絡し同道をお願いし早速科学技術庁へ出かける県からは村田原子力課長、石堀係長上主事も待機しており行動を共にされた。

まず原子力委員の駒形、西村先生島村原子力局長に会い「いかなる思いをしても必ず目的を達するまで頑張られたい」と激励した処、「必ず皆さんの熱意にお応えする」旨力強い決意を披れきされたしばらく打合せをしてからこんどは鹿島政務次官に会い郡先生からも強く口添えがあり、休むひまなく大蔵省へ行く、ところが驚いたことにはさすが本山たる大蔵省だけあって入口に守衛が大勢立ふさかり五名以上はどうしても通さないという、なにしろこちらは三十数名だからむこうも緊張したのに違いない。しかし折角来たのに五名では仕方がない。幾度か交渉しやっと入った。まず予算担当者である児玉主官に会いこちらの事情を説明し誠意を披れきした処事情は判るからよく考慮したいということでこう結政務次官に面会した次官は郡先生と熟知の間柄であり手帳を出して私共の意向を書き留めてくれた。

こういう段階になると要人に会うのが全く容易ではないのである。ここで郡先生と別れ日本原子力産業会議に向う原子力産業会議は日本の原子力開発のためできている重要なるメンバーが会員となっており、茨城県にもその会議があり渡辺寛造先生が本県では会長となっておられる。事務局長の橋本清之助氏は大洗のため今まで非常に骨を折って来られた方であるが、外来中のため関根振興課長に会い

種々懇談して一同一まず東京事務所に引揚げた。

午後二時約束してあった橋本登美三郎先生が事務所に見えられ、先生を囲んで港湾や原研の問題で種々懇談をする田中大蔵大臣は同志であるから自分からもよく懇請しようということで一同意を強くしプリンスホテルにおもむいた。この日プリンスホテルを本部とする港湾協会主催の大会では全国主要港湾の所在地から代表が参加し、大洗からも木内教育長と石田主事が参加した。本県からは鹿島、日立港大洗の三港である。ここでも前途楽観を許さないというので大いに気勢を盛りあげ、明日からの運動方針が決定された。

最後にホテルの一室で一同して加藤高蔵先生に会い港湾と原研について町長から今までの経過を話し今後の協力を依頼する。先生が快よく承諾され、努力を約束してくれた。港湾と原研と二手に分かれて明日から連日上京し波状的に運動する日割はすでに作ってあったので泊り込みで運動する町長と明日の予定者八名を残し一同バスに乗って帰路につく、丁度午後五時である。今日一日は全くタイミングもよく各要所要所に大洗の熱意を示すことができ大いに効果は大したと思う。県事務局からも港湾といい原研といい大洗の結集力は大したものであると賛辞を送られた。

十二月二十四日～二十七日

二十四日から二十六日までは、あらかじめ決めておいた方針に従い町議会港湾特別委員はプリンスホテルの本部において、亦原研特別委員は都道府県会館の東京事務所に本部をおき、県と連絡をとりながら、連日波状的に活躍した。町長は幸い両本部が直ぐ近くにあったので情勢の推移をみながら重点的に動いた。二十四日、港湾の方は県から芝田課長、吉田、安島課長補佐、時崎係長、原研の方は田口課長補佐、安係長等が見えられそれぞれ相前後して議員会館で中山、久保、鈴木の諸先生を訪れ陳情した。

この日大蔵省より第二次回答あり港湾の方は新五ケ年計画依然難航原研の方は土地代の残り二十万坪分が全然つかず、ただアイソトープ建設費だけが一億五千八百万円ついたことはうれしかった。これも二十三日の全員上京が効果を上げたものと思われる。

二十五日は大洗原研のために水戸

から渡辺寛造先生が上京され、私共と一しょに赤城農林大臣、三木政務調査会長及び塚原先生などに会い強く要望してくれたことは有難い次第である。

この日第二次回答あり、あまり進展はみられない。港湾は大蔵省の方で四十年度から新五ケ年計画をやればよくという考え方に立っているので、どうしても自民党の総務会や調整会を動かさなければなるまいと、この方に重点をおく方針が決められた。

この夜東海村長、村田課長も上京され町長と三人原研問題について旅館でおそくまで作戦を練った。土地問題は何とか見通しがあるけれど、地帯整備費は前途楽観を許さないということで、この点を強く押すことにした。

二十六日、また上京してきた特別委員一手に分れそれぞれの部署についた昨夜の情報では今日次官会議で決められるということだったので町長と原研特別委員は早速科学技術庁に赴き鈴江次官に会った。ところが次官は「土地の分と材料試験炉の予算はいよいよ大臣折衝の段階まで持ってゆくことになった。しかし大丈夫決まるものと思う」という話なので「万難を排してやっていただきたい」と激励し種々懇談した局長ベースできまるものと思っておったところ政治折衝まで持って行かれることになったので、大洗原研が如何に中央で重視されていたかとしみじみと感じた次第である。午後からは東京事務所で知事を初め各部長、県選出の国会議員、県会議員も多数会合し、県としての予算獲得重点項目について対策が協議された九項目の中大洗関係が港湾と原研で二つ入っていることは、本県としては異例であろう。

かくて二十七日大臣折衝がはじまり、次の如く大洗原研は、土地予算のほか材料試験炉、アイソトープセンターほかの各施設費の予算が決定、地帯整備費も顔を出し、これらに合せ十億になんとする昭和三十九年度予算がきまり、港湾の方は三十九年度を起点とする新五ケ年計画が正式に決定したわけである。

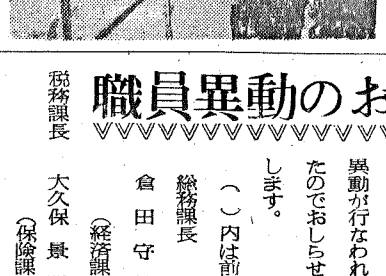
決定された予算の内訳

一、港湾予算（継続事業費）
　一億二千二百万円
二、原研予算
　イ用地買上費　一億四千万円
　ロ、材料試験炉　一億万
　ハ、アイソトープセンター
　　一億一千万円
　ニ、国産動力炉　六千八百万円
　ホ、高速増殖炉　一億五千万円
　ヘ、原子力施設地帯調査費
　　四百万円
　計　八億七千二百万円

これと三十八年度分十地買上費八千万円を加えれば原研関係予算は合計　九億五千二百万円となります。

むすび

毎年繰り返される予算陳情運動は果してこれでよいかどうか、そうした批判はあるにせよ、私共は現実の姿においてそれを捕えそれに対応してゆかねばならない役割を背負わされているのである。こうした意味で昨年暮れも総力を結集した。大洗港の予算を獲得するときもこれもほんとうに必死であったが幸いにして効果が上ったことは喜んでもらいたいと思う。これ



でいよいよ次の段階に入った。さあまた遅んで行こう――力強い足どりで――

終りに今度もそうであるように地方と中央の政治パイプをつなぐため活躍された県議会議員、県選出の国会議員、および、渡辺、後藤の両先生に衷心より御礼申上げる次第です。

（写真説明）
①大蔵省小玉主計官（白シャツ）に原研敷地代の計上を要請する陳情団
②都道府県会館にて県議らと地元代議士に陳情する大洗代表
③加藤高蔵先生に陳情する大洗代表
④原子力産業会議事務局前に勢揃いした大洗陳情団
⑤都道府県会館より国会へ向う陳情団

二月は火災の季節

学年末に注意したいこと

二月は、毎年火災のもっとも多い月です。しかも、空気が乾燥し強い風が吹くという悪条件が重なるために、大火になりやすいのもこの時期です。火の粉、たき火、取灰などのあとしまつには、じゅうぶん気をつけましょう。

学年末は、進学や就職の問題がからまって、不良行為や非行には、しる青少年が多くなります。病気早く発見して、その芽をつんでしまうことがだいせつです。そのためにも、日ごろから家庭団らんの機会をつくり、どんなことでも話しあうように心がけましょう

職員異動のおしらせ

小沼総務、坂本税務両課長の助役収入役就任に伴い、去る一月一日付を以って、次の通り庁内職員の異動が行なわれましたのでおしらせいたします。

（　）内は前職名

総務課長　倉田守義（経済課長）
税務課長　大久保景明（保険課長）
保険課長　小杉光雄（議会事務局長）
商政観光課長　増田栄一（出納室長）
経済課長　田山正徳（農林水産開発係長）
議会事務局長　佐藤忠一（民生係長）
農委事務局長　江橋正之助（水道係長）
出納室長　沢勇（農委事務局長）
厚生課民生係長　川崎義男（商工観光係長）
経済課開発係長　大貫正則（賦課係長）
商工観光係長　小野嶋剛（商政観光係）
税務課賦課係長　彦田三郎（賦課係）
建設課土木係長　半田好一（庶務係）
更生課水道係長　田山康衛（水道係）
税務課賦課係　和田忠男（保険係）
経済課農林水産係　青木栄五郎（税務課賦課係）
保険課国保係　関根博（更生課民生係）
更生課民生係　石田実（総務課庶務係）
総務課庶務係　小谷隆亮（保険課国保係）
商政観光係　江橋源市（経済課農林水産係）